

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第921号 平成27年4月27日

## 札幌オリンピック

札幌市長選が終わり、当選された秋元克広氏が新市長として札幌市政の舵取りをする事になりました。

札幌市政には、少子化や人口減対策等課題が沢山在りますが、札幌オリンピックの招致もまた、大きな課題の一つといえましょう。3月27日、上田文雄札幌市長は、2026年（平成38年）の冬季オリンピック招致を進める考えを正式表明していますが、新市長もその方針を踏襲するお考えのようですので、今後、オリンピック招致に向けた動きが加速するものと思われれます。

ただ、報道によれば、五輪の開催都市は

2018年の冬季：韓国の平昌

2020年の夏季：東京

2022年の冬季：候補都市は北京とアルトマイ（カザフスタン）の2都市で、7月マレーシアのクアラルンプールで開催されるIOC総会で決定される見込みとなっており、オリンピックの候補地はこのところアジアが続いています。このため、欧米諸国から敬遠される恐れがあり、戦いは厳しいとの見方もあります。

さて、札幌で2026年冬季オリンピックが開催されると、2度目のオリンピックという事になります。

前回の札幌オリンピックは、1972（昭和47）年2月3日から11日間にかけて、世界の若者が熱い戦いを繰り広げました。当時私は東京で仕事をしていたので、直接札幌オリンピックの競技の様態を目にする事は出来ませんでした。連日報道されるオリンピックの様子を見ながら、望郷の思いを篤くしたものです。

また、札幌オリンピックを契機として地下鉄や大通り地下街も整備される等、札幌市は国際都市へと大きくその姿を変えて来ました。今日の、札幌の美しい街並みは、オリンピックのお陰といっても良いでしょう。

ただ、オリンピックを開催するとなると、施設整備に莫大なお金が掛かります。今回の札幌市長選においても、5人の候補者の中で1人の候補者が財政負担を理由にオリンピック招致撤回を公約に掲げていましたが、確かに、施設整備等には莫大な資金が必要となります。

札幌市によると、市内にはオリンピックの規格を満たすスケートリンクがないた

めに 1972 年の札幌オリンピックで使った真駒内セキスイハイムスタジアム等の建て替えを検討するとしています。この他にもスキー会場の改修等もあり、これらを含めると競技施設の建設費は現時点でも約 1000 億円に上ると札幌市では試算しています。それをどう工面するかは、大きな課題です。

一方、今年度末に開業予定の新青森―新函館北斗間の新幹線が札幌まで延伸されるのは 2030 年度（平成 42 年土）末とされていますが、仮に 2026 年のオリンピック招致が決まれば、札幌までの延伸は 2030 年といわず、一挙に加速する事が期待されます。

北海道は、経済的にも厳しい状況が続いており重たい空気が漂っていますが、オリンピック招致が実現すれば、そうした空気を一掃してくれるに違いありません。

ところで、1972 年（昭和 47 年）のオリンピックよりも前の 1940 年に札幌オリンピックが開催される予定だった事を皆さんは知っていましたか。

この幻のオリンピックは、1936 年（昭和 11）年の IOC 総会において、第 12 回オリンピックを 1940 年（昭和 15 年）に東京で開催する事が決まり、その際、第 5 回の冬季大会は札幌で開催する事も決まったのですが、当時、日中戦争の影響等もあり東京は開催権を返上し、これに伴い札幌でのオリンピックの開催も露と消えてしまいました。

オリンピックが開催出来るという事は、平和な証拠、というより、世界の人々が平和な世界を構築するために、まだ、夢と希望を失っていない事の証拠といえるでしょう。そのような平和の祭典オリンピックの札幌での開催は、札幌市が国際都市として更に飛躍するきっかけとなるだけでなく、未来を生きる子ども達に、きっと大きくて貴重な財産を残してくれるに違いないと思っています。

（塾頭：吉田 洋一）